

救急・集中ケアにおける終末期看護プラクティスガイド Q&A

1. このガイドは、終末期以外にも活用可能ですか？

患者や家族への看護は、終末期になる前から通常ケアとして行われています。したがって、終末期看護はそれ以前からの連続性を持っているケアになります。

本ガイドは、通常行っている看護の中でも終末期看護に焦点を当て、その特徴を重視したものです。しかし、看護の連続性という視点から、本ガイドで示した看護は終末期のみに限定されるものではありません。よって、終末期以外の看護に適応できる部分は活用可能と考えます。

2. 終末期の判断はどのようにすればよいですか？

終末期に関連した様々なガイドラインでは、終末期の判断は「医師、看護師を含む医療・ケアチームで判断する」と明記されています。医師は医学的側面から病期を診断していますが、看護師も身体所見や各種データから病状をアセスメントし、終末期への移行を予測することは少なくありません。

終末期の判断では医学的側面だけでなく、治療に対する患者の意向や生き方に関する価値観も重要な判断材料になります。それらの情報を多く持っている看護師が終末期の判断に寄与する事は重要です。終末期の判断は、医師による医学的診断と看護師らのアセスメントや評価、患者の意向などから総合的になされるもので、医療・ケアチームで判断することが大切です。

3. 終末期に関連した他のガイドラインとの棲み分けはどのようにしたらいいですか？

終末期に関連したガイドラインは、それぞれの趣旨、目的、適応対象などが異なります。したがって、各ガイドラインはその趣旨や目的に応じて適用されるものです。

本ガイドは、救急・集中ケアにおける終末期看護の実践に焦点を当て、その特徴を重視したものです。また、行動例を示すことによって、より具体的なケアの内容を参照できる利点もあります。

4. 他の医療者にも活用を勧めたほうがいいですか？

本ガイドは、医療チームの一員である看護師の立場から、目標・目的・内容・項目・行動例を示したもので、他の医療者がこのガイドをそのまま活用すること

は難しいと考えます。

しかし、患者の終末期を判断し、その患者や家族を医療チーム全体で支えるという前提に立てば、看護師がどのようなガイドに基づきケアを行っているかを、他の医療者にも知ってもらう意義があるため、情報共有の一つとして示すことができます。

5. このガイドは、どのような看護師が活用するのですか？

患者や家族にかかわるすべての看護師および看護管理者が活用できます。看護スタッフには終末期ケアの看護実践の手引きとして、また看護管理者には終末期のケア管理やスタッフの人材育成の指標の一つとして役立てることができます。

ただし本ガイドには、倫理調整や他の医療専門職との連携など新人看護師が一人で実施するには難しいケアも含まれます。そのような時には、他のガイドラインやマニュアルと同じように、先輩看護師等に相談しながら活用してください。

6. 法的根拠になりうるものですか？

本ガイドは法令と同等の性質を持つものではなく、それに類似するものでもありません。もちろん、法令のような強制力や拘束力もありません。救急・集中ケアの終末期看護の実践に活用できるガイド（手引き）という位置づけです。

ガイドの内容には、法令等に抵触する事項は書かれていませんが、もし、法令または国などが示すガイドラインなどと衝突する場合には、そちらが優先されるのは言うまでもありません。

7. 終末期看護を5つの概念としたのはなぜですか？

本ガイドで設定した5つの概念は、ケアの実践的側面から成り立つもので、看護師が臨床に導入しやすいカテゴリになっています。概念の抽出は、文献レビューや理論、この領域の看護の専門家からの聞き取り調査などを通して行いました。救急・集中ケアにおける終末期看護の実践は、この5概念に網羅されているものと考えています。しかし、対象の個別性や所属する部署・施設の違いにより、この概念に包含されないケアもあると思います。また、異なる概念カテゴリによって終末期看護全体を整理することは可能です。